

鉱山遺跡の観光資源としての活用に関する現状と課題

Current Status and Issues of Utilization of Mine Sites as Tourism Resources

森田 なつみ* 黒田 乃生**

Natsumi MORITA Nobu KURODA

Abstract: In the last few years, the concern on industrial heritage have been increasing domestically and internationally. There are a large number of mining sites in Japan in which some of them are utilized as tourism resources. However, it is difficult to understand the value of mining sites at the first glance. Therefore, in order to utilize the sites for tourism and regional activation, it is necessary to investigate the utilization methods. This study aims to: 1) identify the characteristics of the mining sites in Japan; 2) identify the issues and current status of the mining sites; 3) consider more effective methods to improve its attractiveness as tourism sites. To sum up, this study has found that: 1) each mining site has various characteristics in terms of size area and remaining functions, yet none of it only end up for production activities, which the common characteristic of the entire mining sites in Japan is that it has various functions around the production area; 2) at the current situation, each mining site has difficulties to transmit the residual mining products due to the poor mechanism, which makes it difficult to understand the real figure of the mining sites; 3) the most important things to make it easier to understand the whole figure of the mining site are considering and implementing the combination of effective methods according to the characteristics of each mining site.

Keywords: *mining sites, utilization methods, tourism resources,*

キーワード： 鉱山遺跡, 活用方法, 観光資源

1. はじめに

(1) 研究の背景

日本には数多くの鉱山遺跡が存在し、一部では坑道などを利用した観光資源としての活用が積極的に進められている。2007年には石見銀山遺跡が世界遺産に登録されるなど、今後、鉱山遺跡への社会的関心が高まり、適切な保存と活用が必要になると考えられる。しかし、鉱山遺跡は一見ただけではその価値を理解することが難しく、特徴をふまえた活用方法の検討が不可欠である。

鉱山遺跡の活用に関する既往研究としては、個別の鉱山遺跡を対象とし、遺跡を活用した地域づくりの現状と課題を述べた事例研究が多い¹⁾。複数の鉱山遺跡を対象とした研究として、川崎(1994,1996)は、鉱山事業者が閉山後の産業転換の方針として観光利用を志向した結果、多くの鉱山跡地で観光坑道の整備が進められたことを明らかにした²⁾³⁾。平井(2017)は、炭鉱や鉱山の遺構においては、保全活用の主体が見出す経済的価値と文化的価値の比重が、観光資源化のプロセスを変容させると指摘した⁴⁾。波多野ら(2018)は、文化財指定等による保存、観光資源化および観光以外の利用という視点から鉱山遺跡の保存活用の傾向を分析した結果、現在は保護と観光活用の両立への移行が認められると指摘した⁵⁾。このように鉱山遺跡の観光資源としての活用を俯瞰的に捉える既往研究は少なく、更なる研究の蓄積が必要である。

(2) 研究の目的と対象

本研究は、国内における鉱山遺跡の特徴と観光資源としての活用の現状を把握し課題を明らかにすることを目的とする。その結果、鉱山遺跡を観光資源として活用していく際に、その魅力を伝えるための手法を考察する。対象地は、国史跡に指定されている黄金山産金遺跡、石見銀山遺跡、延沢銀山遺跡、佐渡金銀山遺跡、甲斐金山遺跡、長登銅山跡、足尾銅山跡、多田銀銅山遺跡の計8件の非鉄金属鉱山遺跡とする⁶⁾。国史跡は、資源の歴史的・文化的評価が明確であり、保護を前提とする活用の分析が可能であるため研究対象として妥当であると判断した⁷⁾。

(3) 研究の方法

まず、文献調査により、各史跡の概要、構成要素の有無、分布状況、価値を整理し、鉱山遺跡の特徴を把握した。次に、現地調査を実施し、各史跡における公開の現状、坑道の活用状況、ガイド施設の概要、ガイドツアーとイベントの有無とその頻度、管理団体等によるモデルコース設定の有無やその内容を確認し、各史跡の観光資源としての活用実態を把握した。また、現地調査によって来訪者への情報提供において大きな役割を果たすガイド施設の展示内容と手法を分析した。補足として管理団体である地方自治体の担当者およびガイド施設の職員への聞き取り調査を行った⁸⁾。

2. 史跡の特徴

(1) 概要(表-1)

国史跡に指定された鉱山遺跡8カ所は全国に点在している。指定年は黄金山産金遺跡と石見銀山遺跡が1960年代後半、その後1985年の延沢銀山遺跡まで指定がなく、2015年の多田銀銅山遺跡が最も新しい指定である。石見銀山遺跡と佐渡金銀山遺跡は複数回追加指定されているが、これは世界遺産登録を目指す活動の影響であると考えられる。指定基準は、全ての鉱山遺跡で史跡指定基準6「経済・生産活動に関する遺跡」が適用され、基準2「官公庁跡」が3箇所ある。江戸から昭和に移動していたものが多く、最盛期は江戸時代前期に集中している。最盛期が古代なのは、黄金山産金遺跡と長登銅山跡、近代は佐渡金銀山遺跡と足尾銅山跡である。指定面積は、佐渡金銀山遺跡が最も大きく、次いで石見銀山遺跡、延沢銀山遺跡、甲斐金山遺跡である。これらの4遺跡は、いずれも江戸時代初期に最盛期あるいは繁栄期を迎えていた鉱山遺跡である。指定面積が最も小規模な黄金山産金遺跡は、佐渡金銀山遺跡の約170分の1であり、指定面積には大きな差が見られる。

(2) 史跡としての価値(表-2)

史跡指定時の説明文より、各史跡の価値を整理した。古代に最盛期を迎えた黄金山産金遺跡と長登銅山跡に関しては、内容への具

*株式会社オリエンタルコンサルタンツ **筑波大学芸術系

表一 各史跡の基本情報^{9)~18)}

指定名称	所在地	史跡指定年 追加指定年	指定基準	稼働時代	最盛期	指定面積	管理団体
黄金山産金遺跡	宮城県遠田郡涌谷町涌谷字黄金山、黄金宮前・猿手山地内	1967年	史6(経済・生産活動に関する遺跡)	奈良時代	古代	29,637㎡	涌谷町
石見銀山遺跡	島根県大田市大森町、温泉津町仁摩町	1969年,2002年,2005年,2008年	史2(官公庁跡) 史6(経済・生産活動に関する遺跡)	戦国時代~大正時代	江戸初期	3,156,984㎡	大田市
延沢銀山遺跡	山形県尾花沢市大字銀山新畑、大字六沢、大字延沢7)	1985年	史6(経済・生産活動に関する遺跡)	戦国時代~江戸時代	江戸初期	898,100㎡	尾花沢市
佐渡金銀山遺跡	新潟県佐渡市相川、沢根	1994年,2009年,2010年,2011年,2012年,2013年,2014年,2015年,2017年	史2(官公庁跡) 史3(社寺の跡・祭祀信仰に関する遺跡) 史6(経済・生産活動に関する遺跡) 史7(墳墓及び碑)	平安時代~平成	江戸初期・近代	5,060,619㎡	佐渡市
甲斐金山遺跡 黒川金山 中山金山	黒川金山：山梨県甲州市 中山金山：山梨県南巨摩郡身延町	1997年	史6(経済・生産活動に関する遺跡)	戦国時代~江戸時代	戦国~江戸前期	黒川金山：705,500㎡ 中山金山：163,600㎡	黒川金山：甲州市 中山金山：身延町
長登銅山跡	山口県美祿市	2003年	史6(経済・生産活動に関する遺跡)	奈良時代~昭和	古代	約353,783㎡	美祿市
足尾銅山跡 通洞坑 宇都野火薬庫跡 本山坑 本山動力所跡 本山製錬所跡 本山鉱山神社跡	栃木県日光市	2008年,2014年	史6(経済・生産活動に関する遺跡)	江戸時代~昭和	江戸前期・近代	75,349㎡	日光市
多田銀銅山遺跡	兵庫県川辺郡猪名川町	2015年	史2(官公庁跡) 史6(経済・生産活動に関する遺跡)	平安中期~昭和	江戸前期	191,443㎡	猪名川町

体的な言及が乏しい。これは遺跡の古さから、得られる情報が少ないことが要因と考えられる。一方、江戸時代初頭から前期に最盛期を迎えた6箇所の鉱山遺跡では、繁栄期の産出量からある特定の時代あるいは我が国を代表する鉱山として評価されていることが多い。また、「鉱山技術史上の重要性」や「良好な保存状態」が指定理由として挙げられている場合が多い。

(3) 構成要素(表-3)

石見銀山遺跡、足尾銅山跡、多田銀銅山遺跡の保存管理計画を参考に分類項目を抽出し構成要素を整理した。要素は大きく鉱石の採掘や精錬に関する生産、役所などの支配、坑夫や役人の生活、寺社などの信仰、鉱物や生活物資を運搬する流通の5つに分類することができた。

古代に最盛期を迎えた鉱山遺跡(黄金山産金遺跡・長登銅山跡)では、生産関連要素及び信仰関連要素のみであるが、これは時代が古く残存状態が悪いためであると考えられる。また史跡の構成要素以外に、石見銀山遺跡の温泉津や大森地区(一部史跡指定範囲と重複)には重要伝統的建造物群保存地区があり、複層的に保護されているものもある。一方、多田銀銅山遺跡では十六人間歩群や本町吹屋跡など、要素は存在するが未指定のものが多い。

生産関連要素は坑道のほか、砂金採取地、露頭掘り跡、選鉱製錬場跡、近代生産関連遺構などがある。近代生産関連遺構は明治以降に稼働した生産工程に関わる遺構で、多くは選鉱製錬場跡であるが近代技術の導入により内容が大きく異なるため、別区分とした。産金遺跡である黄金山産金遺跡以外の7箇所には坑道が存在する。近代生産関連遺構を有する遺跡は5箇所あり、4箇所は近世と近代の遺構があり、近世の遺構がないのは足尾銅山跡のみである。

支配関連要素は、中世に築造され鉱山支配の拠点となった城跡や役所跡がある。役所跡には、江戸時代の鉱山管理の拠点であった代官所跡、鉱山や鉱山町への出入りを管理した番所跡などが含まれる。江戸時代以降に最盛期を迎えた鉱山遺跡では、甲斐金山遺跡

以外の5箇所で城跡あるいは役所跡を有していることが分かった。

生活関連要素は、鉱山で働く人々の生活が営まれた集落跡や現存する集落である。戦国時代以降に属する鉱山遺跡では全ての遺跡において集落跡もしくは現存する集落が存在している。

信仰関連要素は寺社のほか墓や石碑などで、全ての鉱山遺跡で確認することができた。特に、寺社は、全ての遺跡において見られ、特に神社は8箇所全ての遺跡で史跡指定範囲に含まれている。寺院があるのは佐渡金銀山遺跡と石見銀山遺跡のみである。墓や仏碑は、4箇所の鉱山遺跡において史跡指定範囲内に含まれている。

流通関連要素は街道や港がある。採掘した鉱石を運搬し選鉱・製錬される場合と、鑄造まで行われ運搬する場合がある。いずれにしても稼働当時は全ての鉱山遺跡で存在したと考えられるが、街道が要素なのは佐渡金銀山遺跡と石見銀山遺跡、多田銀銅山遺跡のみである。佐渡金銀山遺跡と石見銀山遺跡は港も含めた流通関連要素が良好に残存し、広い範囲が指定されたと考えられる。

(4) 構成要素の分布

各史跡の指定範囲および構成要素の分布を整理した結果、3つの種類に分けることができた。ひとつめは指定範囲が1カ所で構成要素がまとまっている史跡で、黄金山産金遺跡と長登銅山跡と、最盛期が古い2箇所がこれに該当する。ふたつめは指定範囲が複数あるが、全ての種類の構成要素が中心の1カ所に集まっているもので、半数の4箇所がこれに該当する。指定範囲が分散していても、1カ所に構成要素が集合していれば、そのエリアを見学することで鉱山遺跡の全容をある程度理解することは可能である。ただし、佐渡金銀山遺跡や石見銀山遺跡など、規模が非常に大きい場合、構成要素が1カ所でもエリア自体が広大で、全ての要素を容易に見学できるとは限らない。また、佐渡金銀山遺跡では、稼働時期によって分布エリアが分散しているため、遺跡の全容を完全に理解するためには、分散する全てのエリアを見学することが望ましい。最後は指定範囲が複数あり、構成要素も散在しているもので延沢

表二 各史跡の価値(指定理由)^{9)~17),19)}

史跡名	代表的な鉱山 (繁栄期の産出量)	鉱山技術史 上の重要性	鉱山経営の実態や 変遷を示す良例	良好な 保存状態	周辺地域への 影響力	その他
黄金山産金遺跡	-	-	-	-	-	・奈良時代の産金関係遺跡としての歴史的意義の深さ
長登銅山遺跡	-	-	○	-	-	・国家的な事業に密接に関連したこと
甲斐金山遺跡	-	-	○	○	-	
佐渡金銀山遺跡	○	○	-	○	-	
石見銀山遺跡	○	○	-	○	○	・経済史上の意義があること
延沢銀山遺跡	○	○	-	-	-	
足尾銅山跡	○	○	-	○	-	・鉱害とその対策の歴史を知る上で重要であること
多田銀銅山遺跡	-	○	○	○	○	・史料の豊富さ

○：史跡指定の説明文に該当する記述あり/-：史跡指定の説明文に該当する記述なし

表-3 各史跡における構成要素の有無⁹⁾⁻¹⁹⁾

大分類	小分類	黄金山産金遺跡 (古代)	長登銅山跡 (古代)	甲斐金山遺跡 (戦国時代・江戸時代前期)	佐渡金銀山遺跡 (江戸時代初期・近代)	石見銀山遺跡 (江戸時代初期)	延沢銀山遺跡 (江戸時代初期)	足尾銅山跡 (江戸時代前期・近代)	多田銀銅山遺跡 (江戸時代前期)
生産関連要素	砂金採取地	◎	-	-	◎	-	-	-	-
	露頭掘り跡	-	◎	◎	◎	◎	-	-	◎
	坑道	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	選鉱・製錬場跡	-	◎	◎	◎	◎	-	-	◎
	近代生産関連遺構	-	◎	-	◎	◎	-	◎	◎
その他	-	-	-	◎	◎	-	◎	-	
支配関連要素	役所跡	-	-	-	◎	◎	-	◎	◎
	城跡	-	-	-	-	◎	◎	-	△
生活関連要素	集落跡	-	-	◎	◎	◎	-	◎	△
	集落	-	-	-	◎	◎	◎	-	-
信仰関連要素	寺社	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	墓・石碑	-	◎	◎	◎	◎	-	-	△
流通関連要素	街道	-	-	-	◎	◎	-	△	◎
	その他	-	-	-	◎	◎	-	◎	-

◎：史跡指定範囲内に構成要素が存在する / ○：史跡指定ではなく、その他の指定を受けている
 △：未指定だが、構成要素としては存在する / -：要素が存在しないあるいは残存していない

銀山遺跡、足尾銅山跡が該当する。以上のように多様な要素が広範囲に分散している遺跡が多く、鉱山遺跡の全容を把握するためには遺跡全体の見学が必要である場合が多い。なお、各史跡の保存管理計画等では、史跡を構成する各要素の性格に合った保存管理の方法を個別に提示するとともに、周辺の環境や景観の保全にも取り組むこと、また、史跡全体の一体的な活用や周辺環境・景観との調和に配慮した総合的な活用への言及が見られる場合が多く、ここで確認した広範囲に多様な要素が分布するという鉱山遺跡の特性が、保存活用の計画においては考慮されている。

3. 活用の現状

(1) 公開の現状(表-4)

8件の鉱山遺跡における主な構成要素の公開状況は表-4の通りである。坑道内部への立入は安全性の確保が難しいという理由で、多くの遺跡で制限されているが、各史跡において少なくとも1箇所は残存状況や安全性等の条件が整っている坑道の内部が公開されている。足尾銅山跡の本山動力所跡や多田銀銅山遺跡の大部分については立入が制限されており、多田銀銅山遺跡では、瀬戸谷間歩群に含まれる青木間歩と金山彦神社以外は全て非公開となっている。そのほかの遺跡では、坑道内部以外で立入りが制限されている場所なく、全体としては十分に公開されていると言える。ただし、佐渡金山遺跡の宗太夫間歩や足尾銅山跡の通洞坑のように、ガイド施設として整備され、解説パネルや音声解説、人形模型等によって積極的な情報提供を行っている場所もあれば、甲斐金山遺跡のように立入制限区域は設けられていないが、遺跡の概要や各遺構の簡単な解説パネルが所々に設置されているだけで積極的な情報提供が行われているとは言えない場所もある。また、限定的な

公開となっている場所もあり、完全に非公開ではないものの全てが積極的に公開されているとは限らないことが明らかとなった。

1) 生産関連要素

坑道については、足尾銅山跡と多田銀銅山遺跡では1箇所、その他5遺跡では複数箇所が公開されている。全ての遺跡で少なくとも1箇所以上の坑道が公開されているが、状態の良い坑道に限られており、多くは内部への立入が禁止されている。坑道は採掘当時の雰囲気を感じることができる印象的な観光要素であるが、全ての坑道を公開する必要はなく、1箇所でも見学可能であれば観光資源として十分に成立し得ると考えられる。砂金採取地跡、露天掘り跡、製錬場跡、近代生産関連遺構については、多田銀銅山遺跡を除き非公開の場所はないが、公開の程度は異なる。例えば近代生産関連遺構については、石見銀山遺跡の清水谷製錬所跡や長登銅山跡の花の山製錬所跡は、常時見学可能なうえ現地に解説パネル等が設置され積極的な情報提供が行われているのに対し、足尾銅山跡の本山製錬所跡は年2回のツアーでのみ見学可能と公開頻度が少ない。また、石見銀山遺跡の永久製錬所跡や佐渡金銀山遺跡の戸地地区、長登銅山跡の伊森製錬所跡では立入制限はなく常時見学可能であるが、現地に解説パネル等はなく情報提供が不十分である。

2) 支配関連要素

役所跡と城跡は、多田銀銅山遺跡を除き、全ての遺跡において見学可能である。石見銀山遺跡の代官所跡は石見銀山資料館として、佐渡金銀山遺跡の御料局佐渡支庁跡は相川郷土博物館として利用されているように、役所跡は建物を利用したガイド施設に活用されている事例がある。城跡は、石見銀山遺跡の矢滝城跡や山吹城跡、延沢銀山遺跡の延沢城跡などでは現地に解説パネルが設置されている。

表-4 各史跡における公開の現状^{18),20)}

大分類	小分類	黄金山産金遺跡	長登銅山跡	甲斐金山遺跡	佐渡金銀山遺跡	石見銀山遺跡	延沢銀山遺跡	足尾銅山跡	多田銀銅山遺跡
生産関連要素	砂金採取地	◎	-	-	△	-	-	-	-
	露頭掘り跡	-	△	○	◎/△	△	-	-	×
	坑道	-	○/×	○	◎/×	◎/○/×	◎/×	◎/×	◎/×
	選鉱・製錬場跡	-	◎	○	◎	△	-	-	×
	近代生産関連遺跡	-	◎/△	-	◎/△	◎/△	-	○	×
その他	-	-	-	△	-	-	○/×	-	
支配関連要素	役所跡	-	-	-	◎/△	◎/△	-	-	×
	城跡	-	-	-	-	◎/△	◎	-	-
生活関連要素	集落跡	-	-	○	◎/△	△	-	-	-
	集落	-	-	-	○	◎	-	-	-
信仰関連要素	寺社	◎	◎	○	△	◎/△	◎	△	◎
	墓・石碑	-	◎	-	△	◎/△	-	-	-
流通関連要素	街道	-	-	-	△	◎	-	-	×
	その他	-	-	-	◎/△	◎	-	-	-

◎：ガイド施設として整備する、案内板を設置するなど常時公開している / ○：ガイドツアーなどを通して定期的に公開している
 △：立入禁止ではないが、積極的に公開しているわけではない、自由見学は可能程度 / ×：非公開 / -：該当する構成要素なし

3) 生活関連要素

現存する集落及び集落跡に関しては、非公開とされている場所はなかった。石見銀山遺跡の鞆ヶ浦では、集落内に石見銀山遺跡や鞆ヶ浦を紹介するガイド施設が設置され、佐渡金銀山遺跡の笹川集落では、世界遺産登録に向けた取組の一環として住民によるガイドツアーがあり、現存する集落は比較的積極的に公開されていると言える。集落跡は、佐渡金銀山遺跡では一部に解説パネルが設置されているが、現地での情報提供をしていない場所も多い。

4) 信仰関連要素

石見銀山遺跡の天正在銘宝篋印塔基壇は石見銀山世界遺産センターに収蔵されており非公開となっているが、それ以外の信仰関連要素に関しては、全て見学可能である。特に宗教施設である神社は比較的積極的に公開されており、黄金山産金遺跡の黄金山神社では解説パネルに加え音声ガイドが現地に設置されている。

5) 流通関連要素

流通関連要素については、石見銀山遺跡、佐渡金銀山遺跡では全て見学可能である。特に、石見銀山遺跡では、街道及び港湾跡を積極的に公開している。多田銀銅山遺跡では、非公開となっている。

(2) 活用の現状

1) 坑道の活用 (表-5)

公開されている7件の史跡の坑道の公開方法と坑道内部における展示手法を整理した。公開されている坑道は計14箇所だった。うちガイド施設として公開されているものが4箇所、個人での自由見学が可能なのが4箇所、ツアー見学での公開となっているものが6箇所だった。長登銅山跡は全ての坑道がツアー見学での公開だった。ガイド施設と自由見学の坑道は、基本的に常時公開なのに対し、ツアー見学は開催数や参加条件などに制約がある。ガイド施設や自由見学が可能ない坑道では、いずれも内部で展示物による情報提供が見られた。7箇所はパネル展示があり、佐渡金銀山遺跡や足尾銅山跡では、坑夫の人形や実物資料を用いた展示がある。延沢銀山遺跡と多田銀銅山遺跡は、簡単な解説パネルが1枚設置されているのみである。このように坑道の公開方法や情報提供の手法は様々であり、全ての坑道が積極的に公開され、十分な情報を提供しているとは言えない現状が明らかになった。

2) ガイド施設 (表-6)

延沢銀山遺跡以外の7遺跡にはガイド施設があり、石見銀山遺跡、佐渡金銀山遺跡、足尾銅山跡には複数のガイド施設が存在する。各施設の入館者数に着目すると、全体としては横這いか、やや減少傾向にある。石見銀山世界遺産センター、史跡佐渡金山、足尾銅山観光の3施設は比較的人館者数が多い。15件中、重要文化財熊谷家住宅と佐渡西三川ゴールドパークを除く13施設において史跡としての価値に関する展示が認められた。

3) ガイドツアー

鉱山遺跡に特化したガイドツアーが提供されているのは、石見銀山遺跡、佐渡金銀山遺跡、甲斐金山遺跡、長登銅山跡、足尾銅山跡、多田銀銅山遺跡である。石見銀山遺跡、佐渡金銀山遺跡、足尾銅山跡では複数種類のガイドツアーが提供されており、鉱山遺跡観光の中心的要素である坑道と鉱山町を主として巡るコースの他、利用者の要望に合わせてカスタムできるコースがある。多田銀銅山遺跡のガイドツアーは、猪名川町全体を案内するものであるが、内容は多田銀山遺跡に特化している。甲斐金山遺跡では市職員による現地説明会があるが開催頻度は年1~2回と少ない。長登銅山跡のガイドツアーは基本的には団体客限定で個人客への提供はされていない。黄金山産金遺跡と延沢銀山遺跡では、鉱山遺跡に特化したガイドツアーは存在せず、町や市全体のガイドツアーにおいて利用者の要望があれば鉱山遺跡がコースに組込まれる。

4) イベント (表-7)

2017年度のイベントの開催数は、石見銀山遺跡が43回と最も

表-5 各史跡における坑道の活用方法^{18), 20)}

史跡名	公開坑道	公開方法	公開頻度	坑道内の展示手法	料金
石見	龍源寺間歩	ガイド施設	常時公開(元旦休業)	パネル展示	有料
	大久保間歩	ツアー見学限定	3~11月の金土日祝		有料
	金屋間歩		お盆期間、予約制		
延沢	銀釜洞跡	自由見学	常時公開(冬期休業)	パネル展示	無料
	疎水坑道				
佐渡	宗太夫坑	ガイド施設	常時公開	パネル展示・人形展示	有料
	道遊坑	ガイド施設	常時公開	パネル展示・実物展示	無料
甲斐	黒川金山遺跡	自由見学	常時公開		無料
	中山金山遺跡	ツアー見学	年に数回、予約制		有料
長登	大切4号坑				
	大切9号坑	ツアー見学限定	予約制(団体のみ)		有料
足尾	大切10号坑				
	通洞坑	ガイド施設	常時公開	パネル展示・人形展示	有料
多田	青木間歩	自由見学	常時公開	パネル展示	無料

表-6 ガイド施設の詳細^{18), 20)}

史跡名(略)	ガイド施設名称	開設年	入館者数		
			2014年	2015年	2016年
黄金山	わくや万葉の里 天平ろまん館	1994年	6,405人	6,777人	-
石見	石見銀山世界遺産センター	2007年	97,232人	87,811人	79,954人
	石見銀山資料館	1976年	27,503人	23,264人	16,485人
	重要文化財 熊谷家住宅	2007年リニューアル	16,565人	15,721人	11,116人
	鞆館	2007年	-	-	-
延沢					
佐渡	史跡 佐渡金山	1973年	162,294人	164,949人	157,302人
	佐渡奉行所跡	2001年(御役所跡)	20,445人	19,878人	21,191人
	相川郷土博物館	1956年	5,547人	4,893人	5,208人
	佐渡西三川ゴールドパーク	1990年	-	-	-
甲斐	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館	1997年	-	-	-
長登	長登銅山文化交流館	2009年	3,978人	5,344人	3,653人
足尾	足尾銅山観光	1980年	124,338人	139,165人	126,846人
	足尾歴史館	2005年	5,615人	5,654人	4,586人
	足尾銅山文化交流館	2007年	-	-	-
多田	多田銀銅山悠久の館	2007年	15,289人	14,515人	14,446人

表-7 イベント²¹⁾

史跡名(略)	開催数	開催定期		形態				内容(遺跡への関連)	
		定期	不定期	参加体験型	講座公演型	観賞型	その他	あり	なし
黄金山	2	1	1	1	0	0	1	1	1
石見	43	13	30	22	6	5	12	14	29
延沢	1	1	0	1	0	0	0	1	0
佐渡	17	5	12	6	4	6	1	7	10
甲斐	10	6	4	5	2	0	3	6	4
長登	4	4	0	2	1	0	1	3	1
足尾	4	4	0	1	1	0	2	2	2
多田	2	2	0	2	0	0	0	2	0
総計	83	36	47	40	14	11	20	36	47

表-8 史跡の分布状況とコース内容の関係²¹⁾

遺跡名(略)	規模	分布状況	コースの数	コース内容
黄金山	小規模	集合型	2	◎
石見	大規模	散在型	7	△
延沢	中規模	散在型	2	△
佐渡	大規模	散在型	6	△
甲斐	中規模	散在型	0	-
長登	中規模	集合型	3	○
足尾	小規模	散在型	8	△
多田	中規模	散在型	2	○

◎：全ての要素が組み込まれている

○：ほぼ全ての要素が組み込まれている

△：特定の要素に偏っている、大部分が組み込まれていない

多く、次に佐渡金銀山遺跡の17回、甲斐金山遺跡の10回である。2017年に世界遺産登録10周年を迎えた石見銀山遺跡や、国史跡指定20周年を迎えた甲斐金山遺跡では例年より開催数が多いと考えられる。長登銅山跡、足尾銅山跡、多田銀銅山遺跡においては、

上記 3 カ所に比べると開催数は少ないが、毎年ほぼ同じイベントが継続して開催されている。黄金山産金遺跡と延沢銀山遺跡は、定期的なイベントが1回のみだった。内容としては、遺跡に関する解説付きの現地見学会、砂金採りや銅製錬実験といった遺跡での作業体験活動など、その遺跡に直接関連するイベントが、いずれの史跡においても少なくとも1回は開催されている。しかし、石見銀山遺跡や佐渡金銀山遺跡のように、イベントの開催数が多くなる程、内容は多様化し、たとえば遺跡での食事会やプロジェクションマッピングなど、史跡を場所として利用しているだけで内容としては遺跡に直接関係のないイベントも多くなる傾向にある。

5) モデルコース (表-8)

甲斐金山遺跡を除く 7 件の史跡において、管理団体等によるモデルコースが設定されていた。黄金山産金遺跡、長登銅山跡、多田銀銅山遺跡では、史跡指定地に含まれる大部分の要素がモデルコースに組み込まれていた。一方、石見銀山遺跡、延沢銀山遺跡、佐渡金銀山遺跡、足尾銅山跡では、モデルコースの数は多いものの、坑道や現存する集落といった特定の要素しか組み込まれていない、あるいは史跡指定地の大部分が紹介されていないことがわかった。これは、前者が比較的 1 カ所に指定地が集中しているのに対し、後者は指定地が広大か広範囲に点在しているためであると考えられる。史跡指定地が広範囲で要素が多様である程、全てを一体的に取り入れたルートの設定が困難であると言える。現状として、広範囲に多様な要素を有する鉱山遺跡においては、そのような遺跡全体を包括した見学ルートの提供がないことが明らかとなった。

各史跡の保存管理計画等では、文化財としての保存を最優先とするとしながらも、学術的調査による史跡の価値の裏付けを行った上で、その価値を顕在化し理解を促すことの重要性についても指摘され、保存だけでなく活用の必要性が高いことが示されている。また関係者へのヒアリング調査によると、多くの地域で観光による地域活性化が期待されており、鉱山遺跡の観光資源としての利用に前向きな場合が多かった。しかし、活用の取り組みは史跡によって様々であり課題を抱えている現状が明らかとなった。

4. ガイダンス施設の展示分析

(1) 分析の方法 (表-9)

7 遺跡 15 件のガイダンス施設における計 768 点の展示物を、表

表-9 展示分析の分類項目

分類項目		詳細	
展示内容	鉱山遺跡の構成要素	生産	採掘・運搬・選鉱・製錬・鑄造・加工という生産動に関する展示
		支配・経営	鉱山の支配・経営に関する展示
		流通	生産された製品の流通に関する展示
		生活	鉱山町における人々の暮らしや、そこで育まれた文化・芸能に関する展示
		信仰	鉱山労働者や鉱山町で生活を営んだ人々の信仰に関する展示
	その他	概要	当該遺跡の概要に関する展示
		地質	地質的な事柄に関する展示
		調査・研究	当該遺跡に関する調査や研究に関する展示
		その他	その他、上記以外の事柄に関する展示
		文字解説	文章や図などによる解説 (年表やグラフ等も含む)
展示手法	実物資料	実物資料の展示	
	模型	模型による解説	
	映像	映像による解説	
	体験	来館者自身が触れたり遊べたりする体験型の展示	

9に示す分類項目に従い、展示内容と展示手法という 2 つの観点から分類した。展示内容は、鉱山遺跡を構成する主な 5 つの要素 (生産、支配・経営、流通、生活、信仰) とそれ以外に分けられる。構成要素以外では、遺跡全体の概要、地質的な事柄、当該遺跡の調査研究に関する展示の 3 種類が見られた。これらに該当しないものはその他とした。展示手法の分類項目としては、文字解説・実物資料・模型・映像・体験の 5 項目に分けることができた。

(2) 分析の結果 (表-10)

1) 展示内容

展示内容に関する全体の傾向としては、「生産」に関する展示が最も多いことが明らかとなった。「生産」に関する展示は 14 件のガイダンス施設で見られ、そのうち 9 件で他の展示内容に比べ「生産」に関する展示の割合が最も高かった。「支配・経営」に関する展示は 10 件、「流通」に関する展示は 7 件、「生活」に関する展示は 14 件、「信仰」に関する展示は 9 件のガイダンス施設で見られた。「生産」に比べれば少ないが「支配・経営」と「生活」に関する展示の割合は「流通」と「信仰」に関する展示に比べて割合が多い。また、既存の建物をガイダンス施設として利用している場合、本来の建物の性格に合った展示内容が多く見られることが多い。たとえば石見銀山遺跡の石見銀山資料館は、江戸時代において石見銀山領支配の拠点であった代官所の跡地であり、その跡地に明

表-10 ガイダンス施設の展示分析の結果²⁰⁾

史跡名 (略)	ガイダンス施設	展示内容 (展示数)								展示手法の有無 (展示数)					
		生産	支配・経営	流通	生活	信仰	概要	地質	調査・研究	その他	文字解説	実物資料	模型	映像	体験
黄金山	わくや万葉の里 天平ろまん館	5	1	1	5	6	5	11	10	32	25	33	7	2	1
石見	石見銀山世界遺産センター	26	7	3	11	2	18	7	17	6	59	28	11	8	7
	石見銀山資料館	18	23	5	19	1	4	4	0	7	29	49	2	0	0
	重要文化財 熊谷家住宅	4	0	1	38	0	6	0	0	7	32	27	0	0	1
	鞆館	0	0	1	5	0	2	0	0	2	10	0	0	0	0
佐渡	史跡佐渡金銀山	39	5	4	6	3	3	7	0	3	27	26	19	1	1
	宗太夫坑コース	14	4	1	2	1	2	4	0	0	25	0	12	0	0
	道遊坑コース	7	1	0	0	0	4	3	0	3	13	2	1	0	0
	佐渡奉行所跡	3	6	0	5	1	2	0	5	5	21	4	0	1	0
	勝場跡	15	3	0	7	0	6	1	4	1	17	12	6	0	0
	相川郷土博物館	22	2	0	22	8	5	3	0	15	30	48	1	0	1
佐渡西三川ゴールドパーク	12	0	0	0	0	1	6	0	3	11	10	1	0	0	
甲斐	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館	10	2	0	4	1	5	6	7	6	15	11	6	5	2
長登	長登銅山文化交流館	29	0	1	16	5	6	7	23	15	17	31	2	1	3
足尾	坑内・屋外	26	1	0	1	1	5	7	0	0	8	8	22	0	2
	足尾銅山観光	12	0	0	0	0	0	1	0	0	4	5	2	1	1
	銅資料館	7	1	0	2	0	2	0	0	4	9	5	2	0	1
	鑄銭座	15	5	0	25	0	3	6	1	27	12	56	9	1	0
足尾歴史館	15	5	0	25	0	3	6	1	27	12	56	9	1	0	
足尾銅山文化交流館	8	0	0	2	0	11	4	1	13	15	13	0	1	2	
多田	多田銀銅山悠久の館	11	4	0	5	0	8	3	9	3	24	17	4	1	2

治時代に建設された瀬摩郡役所をそのまま利用した施設であることから、「支配・経営」に関する展示が多く見られ、石見銀山で最も有力な商家であった熊谷家住宅では「生活」に関する展示の割合が多くなっている。このように、施設自体の場所的な特性が展示内容に影響を及ぼしている事例があった。

2) 展示手法

文字解説は15件全ての、実物資料は14件のガイダンス施設で見られた。映像は10件、体験は10件だった。体験はたとえば製錬作業に用いられる鞆(送風機)の送風体験や、鉱石や鉱滓(製錬過程で生成される不純物)に触れたり持ち上げたりする体験、鉱山遺跡に関するクイズなどがあつた。模型は12件あつたが展示の数は1点から22点までばらつきがあつた。鉱山遺跡は広範囲に多様な要素を有しているが故に、その全体像が見え難く、全体像を如何に分かりやすく伝えるかという点に、より一層の工夫が求められる。視覚的に情報を提供することができる模型や映像による解説は、来館者が当時の状況をイメージしやすくなるという点で、鉱山遺跡の総体に対する理解を促す有効な手段であると考えられるが、現状としては十分に取り入れられていないことが明らかになった。

5. まとめ

本研究で対象とした各鉱山遺跡では、規模や残存する構成要素がそれぞれに異なり様々な特徴が存在するが、生産活動の痕跡のみで成立しているものではなく、生産関連の要素を中心に、それを取り巻く諸要素を含めた人々の営みの総体が見られることが鉱山遺跡全体に共通する特徴であるといえる。各史跡の保存活用計画においては、そうした鉱山遺跡の多面性が認識されている場合が多いが、ガイダンス施設の展示内容が生産関連の事柄に偏っていることや、遺跡全体を包括したモデルコースの提供が行われていないことなどから分かるように、現状の活用においては、遺跡の総体を伝える仕組みが乏しく、全体像が見え難いという課題がある。鉱山遺跡の総体を見せる仕組みが整っていないという現状の課題に対する一因として、史跡指定時の価値付けが不十分であることが考えられる。史跡指定範囲には、生産活動を中心に鉱山で営まれた様々な活動に関する要素が含まれているが、生産や経営以外の事柄については指定理由として明文化されておらず、鉱山遺跡の多面性が明確には価値として表現されていない。このことが、実際の活用において鉱山遺跡の多面性が反映されていない要因のひとつであると考えられる。

鉱山遺跡の総体を示す工夫としては、①ガイダンス施設において、生産関連以外の展示内容を増やし、視覚的に情報を与えることのできる模型・映像・VR等の展示手法を積極的に導入すること、②現地見学におけるガイドや音声ガイドの解説を充実させること、③広範囲に分布する多様な要素を全て組み入れたモデルコースを設定すること、④学習型観光をコンセプトとし、観光客の学習意識を向上させること、の4点が挙げられる。本研究で対象としたのは、規模や残存する要素などが比較的整っている、資源の価値の高い事例と言える。国史跡に指定されていない鉱山遺跡では、鉱山遺跡の総体を示す痕跡がより乏しいことが予想されるが、基本的にはいずれの鉱山遺跡においても同様の提案ができると考える。ただし、遺跡ごとの特徴によって重点的に必要とされる活用手法は異なる。例えば、石見銀山遺跡や佐渡金銀山遺跡のように規模が大きい程、含まれる構成要素が多様な傾向にあり、それらを活用して往時の様子を想起させることは可能だが、規模が大きい分、遺跡の全体像を捉え易くする工夫が必要である。一方、黄金山産金遺跡のように規模が小さい遺跡では、遺跡全体を見せること自体は容易だが、残存する要素が少ない分、現地には残されていない要素も含めて往時を想起させる工夫が必要である。いずれの場合も、来訪者に対する必要最低限の情報源としてガイダンス施設を核とし、規模

の大きな遺跡ではルート設定を、残存する要素の乏しい遺跡では現地での情報不足を補うためにガイドツアーなどを充実させるべきであろう。このように、各鉱山遺跡の特徴に合わせて、有効な手法の組み合わせを検討し実行することが、鉱山遺跡を分かりやすく、そして魅力的に伝える上で最も重要であるといえる。

補注及び引用文献

- 1) 秋田県本部小坂町職員労働組合(1999): 鉱山文化を生かした街の再生→近代化遺産の活用事例から 特集 自治体による企業の実践と支援: 月刊自治41(477),57-61
- 2) 川崎茂(1994): 鉱山跡地の風景論: 金沢大学文学部論集史学科篇13/14号, p1-48
- 3) 川崎茂(1996): 続鉱山跡地の風景論: 金沢大学文学部論集史学科篇16号, 1-43
- 4) 平井健文(2017): 日本における産業遺産の観光資源化プロセス-炭鉱・鉱山の遺構に見出される価値の変容に着目して: 観光学評論5(1),3-19
- 5) 波多野想・田原淳史(2018): 鉱山遺跡を対象とした保存・活用の特徴と傾向: 遺跡学研究 日本遺跡学会誌(15),123-128
- 6) 非鉄金属と鉄や石炭では生産規模施設や作業工程が異なることから、同じ視点での分析は難しい。このため本研究では非鉄金属鉱山のみを対象とする。
- 7) 本研究は鉱山遺跡の総合的な活用を検討するものであり、同じ条件で比較するために史跡のみを対象とした。このため、評価指標や選定プロセスが異なる重要文化的景観、遺跡の一部のみが単体で指定されている重要文化財は対象外とした。
- 8) ヒアリング調査の対象は各史跡の管理団体において実質的な管理を担当している各市町の文化振興課に相当する部署の担当者、およびガイダンス施設の担当者を中心とし、可能な場合は各市町の観光課に相当する部署の担当者にも調査を実施した。
- 9) 文化庁「国指定文化財等データベース 黄金山産金遺跡」<<https://kumishitei.bunka.go.jp/bys/maindetails.asp>>2018年5月21日最終アクセス。
- 10) 島根県大田市(2006)『史跡石見銀山遺跡 保存管理計画』島根県大田市,p.1,pp.12-19,pp.63-72, pp.128-137
- 11) 尾花沢市教育委員会編(1989)『史跡延沢銀山遺跡保存管理計画書』尾花沢市教育委員会,pp.31-33, pp.39-42,pp.96-97
- 12) 佐渡市世界遺産推進課(2012)『史跡佐渡金銀山遺跡保存管理計画書 第1期』佐渡市世界遺産推進課,pp.1-4,21-22
- 13) 佐渡市世界遺産推進課(2016)『“佐渡金銀山” 視察史料』佐渡市世界遺産推進課。
- 14) 山梨県身延町(2007)『史跡甲斐金山遺跡(中山金山) 保存管理計画書』<<https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/hozon/worldheritage.html#2>>2018年10月28日最終アクセス。
- 15) 美祿市教育委員会編(2012)『国指定史跡 長登銅山跡保存管理策定報告書』美祿市教育委員会,p.1.5,pp.67-68
- 16) 日光市教育委員会(2016)『史跡足尾銅山跡 通洞坑 宇都野火薬庫跡 本山坑本山動力所跡 本山製錬所跡 本山鉱山神社跡 保存活用計画』日光市教育委員会,pp.31-37
- 17) 猪名川町教育委員会事務局教育振興課社会教育室編(2018)『史跡 多田銀銅山遺跡 保存活用計画』猪名川町教育委員会,pp.30-32,p.47,pp.84-136
- 18) 各史跡におけるヒアリング調査の結果より
: 浦谷市教育委員会生涯学習課 文化財保護班 班長、一般社団法人浦谷町地域振興公社(天平ろまん館施設長)、大田市教育委員会教育部 石見銀山課 課長補佐、石見交通株式会社石見銀山世界遺産センター マネージャー、石見銀山ガイドの会長、合同会社家の女たち 代表、鞆の鋳造株式会社 代表、島根県商工労働部観光振興課 観光政策スタッフ 調整監、NPO法人石見銀山資料館(石見銀山資料館 館長)、大田市産業振興部観光振興課 主任主事、尾花沢市教育委員会社会教育課文化財係 係長、新潟県教育庁文化行政課 世界遺産登録推進室 調査研究担当、佐渡市産業観光部 世界遺産推進課 課長補佐・主任・主事・学芸員、株式会社ゴールデン佐渡 取締役社長、佐渡市教育委員会社会教育課 佐渡学センター 所長、甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長、身延町教育委員会生涯学習課 学芸員、美祿市教育委員会事務局文化財保護課 主任、長登銅山文化交流館 館長、日光市観光部足尾銅山観光課 課長、日光市教育委員会事務局文化財課 世界遺産登録推進室 主査、足尾銅山観光管理事務所 所長、猪名川町教育委員会教育振興課 社会教育室文化財担当 主査、猪名川町地域振興部産業観光課主査(計24団体27名)
- 19) 表2と表3で便宜上、鉱山遺跡が最盛期を迎えた時代順に並べ替えている。
- 20) 現地調査より
- 21) 各史跡のパンフレットや観光情報サイト等より

(2019.9.28受付, 2020.3.30受理)